

「学校における著作権演習」～解答編～

(正 解)

- 1 美術の授業で、資料集から有名な画家の絵をコピーし、授業用のプリントとして児童生徒に配った。授業で利用するので、著作権者の許諾をとらなくてよい。



学校など「非営利の教育機関」では、授業のために必要な範囲内で、先生や授業を受ける者が、公表された著作物を著作権者の許諾を得ないで使用することが認められている。

- 2 職員会の中で、校長先生が新聞に掲載されていた記事の一部分をコピーし、教員に配った。教育用として利用するので、著作権者の許諾をとらなくてよい。



職員会での利用は、教職員の職務上の参考にするために著作物を複製・配布することになり、教員が授業において使用するための複製には該当せず、著作権者への許諾が必要になる。

- 3 学校の授業を録画し、後日そこで使われた資料も含め遠隔地の学校の教室に配信し、児童生徒に視聴させる場合、著作権者の許諾をとらなくてよい。



このケースは、教育機関での公衆送信の例外規定のうち、「生で中継される授業を受信地点で同時に受ける者への送信であること」に反し、後日配信するため許諾が必要になる。

- 4 運動会で、看板に人気漫画のキャラクターの絵を児童生徒が描いて使用した。学校行事での利用なので、著作権者の許諾をとらなくてよい。



原則として許諾が必要ですが、児童生徒が授業で使うために複製する場合、例外的に著作権者の許諾を得なくてよい。運動会等の特別活動も授業と考えられる。

- 5 児童生徒が文化祭で演奏した曲を録画し、ダビングして児童生徒全員に配った。教育用として利用するので、著作権者の許諾をとらなくてよい。



児童生徒が文化祭で他人の著作物を非営利・無料・無報酬で演奏することは例外規定で認められているが、録画したものをコピーして他人へ配布する行為は認められていないため、著作権者の許諾が必要になる。

- 6 児童生徒の作品を学校のホームページで紹介するため、担任の教員の判断でホームページに掲載した。この行為は、著作権法上問題ない。



作品をホームページに載せることは、作品を複製し公衆送信することになるため、作品の著作者である児童生徒の許諾が必要になる。なお、児童生徒は未成年であるため、保護者への同意を取っておくとよい。

- 7 吹奏楽部の演奏会で、会場費の補助にするために、500円の入場料を取ったが、部員には報酬を支払わないので、著作権者に演奏の許諾をとらなくてよい。



許諾が必要ない場合の例外規定は、非営利・無料・無報酬が原則である。この場合、料金を徴収しているので、著作権者への許諾が必要になる。

- 8 英語のヒアリングの授業で、市販の英語CDを使って児童生徒に聞かせた。授業で利用するので、著作権者の許諾をとらなくてよい。



非営利・無料・無報酬であれば、例外的に著作権者の許諾なしに言語の著作物を口述することは認められている。口述には、CD等に録音されたものの再生も含まれる。

- 9 「学校教育のための非営利目的利用」OKマークがついた研究資料をホームページからダウンロードし、要約したものを教員の研修会で配った。教育活動での利用なので、著作権者に許諾をとらなくてよい。



「学校教育のための非営利目的利用」OKマークは、非営利目的で学校活動であれば、利用方法に制限はなく、改変・切除等が認められているため、許諾をとらなくてよい。ただし、著作者の名前が表示されている場合には、利用に際して著作者名を表示し、また、著作者の社会的な評判や名誉を傷つけるような使い方をしてはいけない。

- 10 先生が個人で録画したテレビ番組を授業で利用したところ、児童生徒の評判がよかったので、同じ学年の他の先生にも授業で利用してもらうことにした。この場合、授業での利用なので著作権者の許諾をとらなくてよい。



教育番組などを複製して授業で利用する場合は、録画した先生自身が、非営利・無料・無報酬で上映することが例外規定で認められている。しかし、録画していない先生が上映できるところまでは許容されていないため、著作権者の許諾が必要になる。